平成２６年度　事業報告書

特別養護老人ホーム　大慈弥勒園

１．　≪平成２６年度法人ヴィジョン≫
①経営の強化
②サービスの質の向上
③教育システムの充実

２．　≪基本方針≫
老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、肉体的な援助を行なう。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。特養においては、認知症専門棟及び一般棟の特色を活かしたケアができる様努める。

３．≪中・長期計画≫
●最終目標
①『ふぁっとほーむな生活を目指す』
※ふぁっとほーむとは、和みのある家庭的な雰囲気の中で、人と人とのつながりを大切にすること
②『一人ひとりが輝き、あなたが主役になる場所を目指す』
●中期目標
①経営理念やヴィジョンを全員が把握し、徹底していくことで特色ある施設作りができる。
②職員レベルを向上させプロ集団を形成すると共に、サービスの質を向上させる。
●２６年度重点目標
①従来から行っているＰＤＣＡサイクルの効率化を推進する為、予定の徹底的管理を実施。
②ゲスト情報の一元化し、ケアプランを中心としたケアマネジメントの構築を図る。
③顧客確保及び人財確保の為、広報活動を推進する。
④老朽化等に伴う設備改修工事を適宜行う。

４．≪部門別目標≫
＜ケア部門＞（1F→プラム棟、3F→一般棟）
＜目標＞
◎プラム棟：『ゲストが楽しみのある生活ができ、元気に過ごせる』
①職員個々のモチベーションを向上させチーム力を強化する。
A）普段から話せる環境作り。
B）部署内を清潔に保つ。（モチベーション維持には、まず清潔な環境から）

朝の朝礼を継続して実施することが出来た。また、毎月の会議で朝礼の内容の見直し、その日の流れを各自把握する事で、人員の少ない中でもスムーズに業務が行えるようになった。 部門員が率先し、毎朝と昼食後の床の清掃を、その日の出勤者全員で５分間行う事が出来た。また、清掃員がいない中でも、出来る事はしていこうという意識を持ってトイレ掃除なども行えている。だが、整理整頓に関しては、まだまだ出来ていないと感じる。

②ゲストの覚醒レベルを向上し、自立支援を促進する。

A）認知症専門職としてのスキル向上。

B）ご希望を叶えることで、生活の質を向上。

全体会議の学習会を行う事で、言葉掛けに対し意識をもって接する職員も多少なりとも出てきた。ただ、認知症ゲストの対応に関して、理解できていない職員や、対応も様々であるところが問題であると感じる。水分量、食事量の維持は全体的に出来た。夜間排便率に関しては、部門での取り組み任せになり、担当として、しっかりと対策を言える職員が少なかった。

全ゲストの願い事を叶える事が出来た。願い事を聞く事が難しいゲストに関しては、家族様に情報をもらったり、ちょっとした会話の中から、情報を得る事が出来た。ほとんどが外出する内容となったが、事故なく実施でき、ゲストやご家族に喜んで頂け、良かったと思う。

◎一般棟：『褥瘡等の件数を５０％減少』

①清潔について見直し、日常のスキンケアの徹底を図る。

A）排泄・入浴介助面における手順や効率を徹底的に見直しシステム化する。

B）職員個々が褥瘡好発部位を把握し適切な介護を行う。

清潔保持又は身体の観察が容易に出来るとし、２大ケアのポイント（排泄・入浴）に視点をあてた。作業環境の見直しを行う事で、清潔が保持される事又は異常発見時の報告スピードの上昇を目的とした。入浴チェック表に発赤確認シートを設置。また、毎日の入浴における、介助時間・度合のバランス化を図る。そして陰部洗浄ボトルに着目し購入・設置等の見直しと、システム化を図った。これによりスキンケア徹底の意識が働いたと認識している。

介護力向上部門により、ゲストの褥瘡既往歴・再発・好発部位を過去データより、特定しリスト化した。好発部位を意識した体位変換を実施するよう取り組みの見直しを行い、部署会議では年間で計３回、介護技術講習会を開催した。

①クッション等を使用したポジショニングの勉強会

②好発部位を意識した体位変換の勉強会

③車椅子座位時における姿勢保持の勉強会

各勉強会における内容は基礎・基本であったが、個々に改めて振り返りが出来る環境を設けるた。それに伴って、予防に対する意識統一が働き、大切な勉強会であったことを認識している。

②異常発見時は職員間で情報・意識を共有し迅速・正確な対応が出来る。

A）褥瘡・赤みを形成しているゲストの情報を共有する。

B）軽度の段階でも対策の評価を行う。

入浴表に発赤確認シート欄の設置又はシステム化を行った後、過去例を元に入所されている全ゲストの褥瘡発生履歴を作成し一覧化と見える化を行い、履歴をもとに各個人の体位変換表を作成した。各居室内に貼り付けし、好発部位・既往歴を元とした体位変換を行えるようにシステム化を図った。

医務と連携し変化があれば、すぐに報告といった流れは、発生件数から見て、迅速になったことが考えられる。予防の必要性を認識する中、ＰＤＣＡサイクルに基づいた評価の重要性をさらに再認識した。そして、適正な評価は次の行動を変える為、次年度においても最重要課題としたい。

③ゲストの個別性を職員間で共有し、その方に応じたケアが実施出来る。

A）ゲストの好きなもの、興味・関心に重点を置いたアセスメントを実施する。

B）ゲスト視点での離着床目的を増加し、活動時間の拡大を図る。

ケース担当者の関わりから、聞き取った興味・関心の内容を記録に反映するといった、取り組みを部門で管理し重点的に行った。その結果、コミュニケーションの記録数として月平均 50 件超の記録数アップとなった。次にその記録を元に、活動時間の増加を目的とした取り組みへと繋がる可能性へ近づけ、頻度は少ないが、外出企画を提案し実行した。

ゲストから聞き取った、興味・関心のコミュニケーションの記録内容から、行事企画を部門内で行い、外出（神社・食事・買い物・足湯）等の企画を実行した。その背景には『ゲストの想いから始まる企画』と『企画に参加し、共に考える』がコンセプトにある。昨年度はご家族参加型の行事（Ｘｍａｓ会）を企画し、今年の１２月には第２回目を実施した。今後もゲストの想いや視点から始まる活動の増加を図りたい。

５．≪相談援助部門≫

＜目標＞

①ゲスト情報を一元化し、ケアプランを中心としたケアマネジメントの構築を図る。

A）アセスメントツールの検討・実施。

②モニタリングの精度を上げる。

A）モニタリングシートの検討・更新。

B）情報収集の方法や共有方法の再検討。

書式作成に目が向き、本来の趣旨であるケアプランを中心としたケアマネジメントを考える事が疎かになっていたように感じる。調査票の書式変更や介護ソフトの活用等、具体的に取り組めたものはあるが、目標には遠く及んでいない。主に委員会活動を中心に実行してきたが、改めて介護の仕事の情報量、又、その共有の難しさを痛感した一年であった。

６．≪経営部門≫

＜目標＞

①充足率９９％維持を目指し、経営基盤の安定を図る。

A）各部署等と共同し、ゲストの疾病予防策を検討して健康維持を図る。

B）入所待機者との関わりを増やし状況を把握する。上位３名の面接を常に行い、スムーズな入所を目指す。緊急入所についても率先して行動する。

C）総務部と共に経営分析を長期・中期的に行い健全な経営を維持する。

D）待機者管理促進の為、月２回会議を実施する。

前年度平均充足率97.5%に対し、今年度は98%と約0.5%アップに留まった。年度途中までは98.5%以上で推移していたが、1月から感染症が大流行し新規ゲストの入所ができなかった事に起因する。詳しい理由は、※2の入退所等内訳表参照。
待機者は、依然約150名（3／31時点）程度であるが、近年緊急性が減少してきている。

②新たな加算取得を目指し収入アップを目指す。

A）認知症専門ケア加算の取得を目指す。

下記の表に記載の通り、今年度２名認知症リーダー研修が終了し、加算算定条件は整ったが、２名異動となった為、加算の算定は断念。次年度以降に持越しとなった。

	２６年度受講者数	これまでの累積数	加算取得に必要な人数
認知症実践者研修	２名	１４名	－
認知症リーダー研修	２名	６名	６名以上

③紙おむつ代削減の継続を図る。

A）２５年度実績を上回らないよう、チェック体制を継続。

消費税3%アップと感染症蔓延等の理由により、前年度より約100万円アップした。目標値や単価の再検討を行い、次年度も継続したい。

④人財確保及び新規顧客獲得のため、広報活動の推進を図る。

A）リニューアルしたホームページを更に活用し、情報量の増加及び「大慈園らしさ」をアピールする。

B）フェイスブック等を活用し、リアルタイムな情報を発信し続ける。

C）学校訪問し、人財確保を図る。

事業戦略委員会において、上記の対策を推進。専用の窓口を設置した事で、新卒者が不安なく円滑に入職できた。

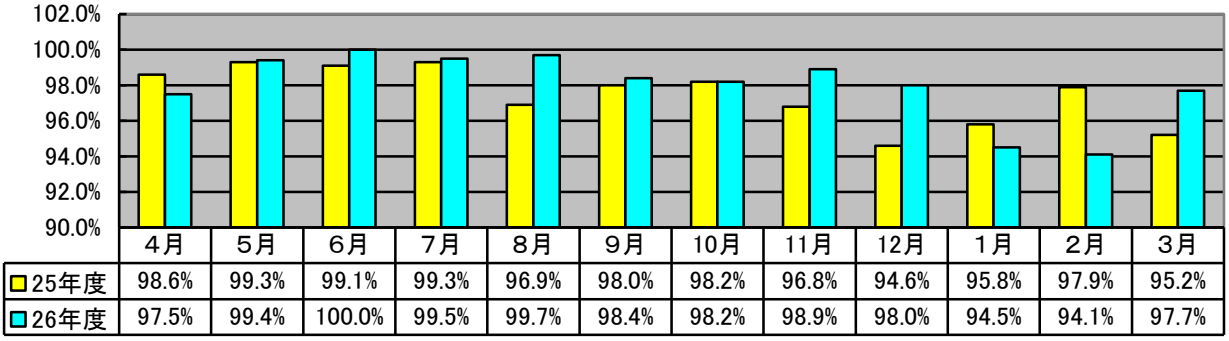
⑤介護福祉士資格取得支援制度の拡充を行う。

A）実務者研修費用全額支給

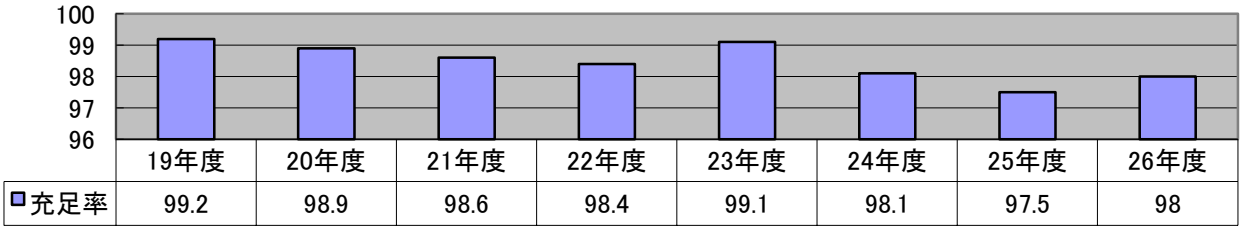
B）登録研修機関の申請・登録

介護福祉士の合格率は50%（6名受験し、3名合格）した。前年度66%（6名受験し4名が合格）であった事を考えると対策を再検討したい。

●２６年度月別充足率表



●※1 年度別充足率推移（%）



●※2 入退所等内訳表（人）

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
①26年度	26	0	39	27	23	5
②25年度	37	2	49	35	28	0
③24年度	27	1	50	39	15	1
増減①－②	−11	−2	−10	−8	−5	+5

●介護度別年齢別等人数表

平成２７年３月３１日時点での在籍数

平均滞在期間３．０年（男性３．４年、女性２．９年）

最高滞在期間１１年（女性）

	平成２６年度				平成２５年度			
要介護度	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	10	3	7	85.1歳	8	3	5	85.4歳
2	12	4	8	88.7歳	11	3	8	84.3歳
3	24	6	18	84.9歳	36	9	27	84.6歳
4	25	4	21	85.8歳	24	5	19	85.1歳
5	30	4	26	86.5歳	22	3	19	88.0歳
合計	101	21	80		101	23	78	
平均介護度		3.1	3.6	3.5		3.1	3.5	3.4
平均年齢		81.9歳	87.2歳	86.1歳		81歳	86.8歳	85.8歳
最高年齢		97歳	105歳			96歳	104歳	
最小年齢		56歳	59歳			55歳	58歳	

７．　≪理学療法科≫

＜年間計画内容＞

座位排便の定着に向けて、１・３Ｆとの連携を密にする事で、メニュー作成時より参加し、日中の排便を促せる運動項目の設定をすることで、自立支援に向けた取り組みができればと考えている。

＜実践目標＞

①個別機能レベルの評価

A）生活対応の見直し（個別対応）・・・年２回

B）残存機能レベル評価・・・年２回

②座位排便の定着

A）運動部門への提言

・メニュー作成へのアドバイス

・機能状態に応じた運動項目の立案

・状況に応じて変更や見直し

B）現場対応策の提言・・・随時（年２回のリスク研修等）

ゲスト個々の生活動作（残存機能レベル評価）に適した対応法の見直し・指示（変化時においては随時）等に関しては、ケアカンファレンスを通じて現場職員・ゲスト家族への報告等は実践出来た。また、急変時・入退院時においてもその都度で実施出来た。

座位排便の定着に関しては、特定ゲストに対して現場職員と連携し、プログラム作成へのアドバイス・立案・提言等は実施出来たが、年度中間時点において連携不足から年間目標の達成は成されなかった。

●業務実績

○物理療法・・・年間３７７回（２５年度４９９回）

○運動療法・・・年間２９９回（２５年度３８９回）

８．　≪看護部≫

＜目標＞

『人生最期の時を安らかに迎えられるよう尊厳を守り本人の生き方を尊重したエンドオブライフケアを実践する』

①身体機能の衰弱による褥瘡発生を防止する。

各部署ともに申し送りに参加することでゲストの状態把握は行えている。また、医務内での情報収集も以前より出来ており、情報共有も出来ている。状態変化に対しても、看護職員間で連携及び早期対応も行えており、日々の医務内での申し送りも実施することで、担当部署以外の情報も共有することが出来ている。また、看取り対象者には状態変化に伴い早期対応が行え、褥瘡形成はなかった。

②本人や家族の意思を尊重できるよう気持ちに寄り添ったグリーフケアの充実に取り組む。

看取り対象者については、弥勒園 17 名、吉祥園 6 名永眠されている。ゲストや御家族のグリーフケアについては個々の家族背景によって困難なケースもあった。少しでも気持ちに寄り添った看取りケアの充実が出来るように望んだ年度であった。看護職員も看取りケアを通し、個々に学んだケースも多々あったと考えられる為、今後の看取りケアに活かしたい。また、記録に関しては、メンタルアセスメントの記録が以前よりは出来てきているが、まだまだ不十分であるため、引き続き継続していきたいと考えている。3F の K 氏 27 日永眠。K 氏は 18 年と長期入所者であり、御家族との関わりも多職種ともに多く，なごり惜しいお別れであった。亡くなる数日間は他職種が頻回に訪室出来、エンドオブライフケアが実践できたケースだった。

●年間業務

月	項目	内容
6・7 月	職員定期検診	胸部 X 線、採血、検尿、検便、心電図、腰椎 X 線（CW のみ）
11・12 月	ゲスト・全職員	インフルエンザ予防接種
	入所者定期検診	胸部 X 線、採血等
１月	介護職員定期検診	採血

●週間診療表※眼科・耳鼻科等は、外部へ随時受診。

曜日	午前　午後	医師名	診療科目	頻度
月	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
	午前	平山　尚哉	歯科	毎週
火	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週
水	午前	真継　猛	整形外科	毎週
	午後	松浦　肇	皮膚科	月２回
		平山尚哉	歯科	毎週往診
木	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後			
金	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後		糖尿内科	
土	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	

９．　≪栄養科≫

＜目標＞

①チームで自立支援理論による全員常食化をめざし、ゲスト個々の機能維持

A）食事形態アセスメントシートを活用し、他職種で評価決定し情報を共有する。

B）各部署の部門チームと情報を交換する。

C）食事形態アセスメントシートの項目を見直し、更新する。

D）目標を共有し、担当職員から情報発信できる環境を作る

②食生活の質を向上

A）各フロアと厨房の調整

・情報収集と他職種との意見交換を行う。

・各部署の食事部門と情報を共有する。

B）ゲストの嗜好にあった食事計画の実施

・ゲストのメニューアンケート結果から食事計画を実施する。

・各フロアの特色を生かした食事計画を継続して実施する。

・食事行事を継続する。日常の食事提供に取り入れる事で、刺激ある食事サービスの機会を増やす。

個々の機能維持につながるよう、月１回の給食会議を通して日程調整、他職種での観察、計画実施報告等の流れはできた。食事アセスメントシートはケアカンファレンスへの導入時は、着目すべき点が統一できるよう主任や給食委員が、特に新職員へ対し相談役として、指導もあり順調であった。しかし、シートは新しい職員が食事摂取機能面を理解する為にも活用しているが、ゲストの機能維持にむけた改善案等の内容が職員によっても技量の差があり、今後の課題である。食生活の質の向上にむけて、来年度の業務内容を含め、委託業者と何度も話あう機会をもち栄養士業務、厨房業務の見直しを行った。日々の献立、食事行事では、アンケート結果から新しい提案もあり、ゲストの楽しみにつながっていた。

しかし、委員の交代が続き、食事行事実施にむけた目的・計画・指示発信を行う企画担当が行うべき事柄についてのポイントや理解を深めることから始めたこともあり、前年度と比べて機能維持につながるゲストの新しい発見が見落とされたり、発見しても次に生かすことができない状況もあった。しかし、年度後半にかけてゲストから満足、楽しかったと多くの声をいただきやりがいを感じる職員もおり、来年度も継続して行いたい。

●月間行事

行事食	内容
誕生会	１Ｆは月１回、昼食で特別食、間食はケーキを提供している。３Ｆの誕生日会は誕生日当日に対象ゲストにのみ特別食を実施している。
家族食事会 （デザート作り）	デザート作りは家族食事会の日に対象ゲストが中心で、食後のデザートを作り、食後にコーヒーと共に提供した。
コーヒー喫茶	１Ｆでパン購入日とあわせて毎月実施した。
毎月１日のお知らせ	毎月１日の赤飯と天ぷらに固定し、月初めにお知らせしている。
選択食	朝食のみ和食とパン食で選択食を実施しているが、摂取量が低下傾向の方や希望されるゲストは昼夕食でも随時対応している嗜好確認は年２回、個別で、肉類・魚類・麺類・油の多い物・丼物・味（カレーやマヨネーズふりかけ等）等については代替え対応を出来る限り行った。
食事行事 昼食：バイキング 間食：おやつ作り	毎月１回、各フロアの委員、担当者と栄養士で計画し、昼食・間食のどちらかでフロア毎に食事行事を実施した。委員の変更があったが、目的設定、計画、進め方など食事行事が修了するまで担当がプロデューサーとなり、一つの行事として最後まで行うことで、ゲストの満足感を感じる事もでき、職員のやりがいにもつながった。＜内容は年間行事に記載＞

＜年間行事食＞
略語の説明→み（弥勒園）　　ＳＳ（ショートステイ）

月	年間行事	内容	施設
4月	創立記念日もちつき	園内行事として実施した餅つきを楽しんでいただき、紅白餅をつくり参加されたゲストへその場で御汁粉を提供した。	み・ＳＳ
	お花見会	間食にホールで桜餅をゲストと作り半月盆で提供した。配膳時にお抹茶のセットと共にお持ちした。希望されるゲストには、ご自身でお茶をたてていただき、おかわりをされる方もいた。	み
	お花見弁当	昼食で、園庭で松花堂弁当箱に桜の塩着けを添えて提供した。上から花びらも舞っており、雰囲気もよかった。甘酒はお屠蘇の器で提供した。	み・ＳＳ
5月	おにぎりﾊﾞｲｷﾝｸﾞ	昼食で、6種類のおにぎりをにぎり風にアレンジし、大きな寿司桶に並べた。寿司桶を職員がもちはこび、ゲストに選んでいただき、半月盆にもりつけ提供した。おにぎりが寿司の様に豪華に見えた。ゲストの食欲も上がり、食べて下さるゲストも提供するスタッフも笑顔であった。	み・ＳＳ
	家族食事会	鯛の塩釜焼きを行なった。ご家族にお子様が来られており、塩釜から出てくる鯛に興味津々であった。お子様が、配るのを手伝ってくれた為、ゲストも微笑ましく配られた鯛を食べられた。	み
	パン祭り	昼食に温かいままで提供するために、4回に時間をずらし、焼き立てパンを温かいまま提供した。5種類のパンからゲストに選んでいただいたが、食事が終了してからも、次の焼き立てパンを希望されるゲストもおられた。	み
6月	中華バイキング	個々のゲストの方に、テーブル中央にオードブルの様に綺麗に盛った、イカリング・シュウマイ・揚げ茄子・かに玉・皿そば等、9種類の中華メニューを熱いまま提供する為に、あんはフロアでかけて、オードブルにして各テーブルにおいた。テーブルにオードブルを配膳した瞬間に、ゲストが、我先にと皿に好きなおかずを取り分けられる姿が見られとても生き生きとされていた。ターミナルでゼリー食のゲストが、かに玉のあんを味わう姿が見られた。	み・ＳＳ
	家族食事会	天ぷらとメインに松花堂弁当箱で提供した。	み
	だがし屋さん	前回の雰囲気に加え、厨房からは、えびせんとソースと青のりを提供し、たこせん屋を設置した。1F スタッフがソースでゲストの名前や配偶者、孫の名前を書いて、手渡した。ほとんどのゲストが読み上げて笑顔がみられた。いつもはミキサー食の方々にもソースの味を楽しんで頂いていた。	み・ＳＳ
	粉もんバイキング	お好み焼き、焼きそばは厨房で焼いた物を、フロアで温めながら提供した。たこ焼きは生地からゲストにも焼いて頂き提供した。ゲストの食欲や食事意欲に関して、とても上がっている様に感じられた。ただ、食事介助を必要とされるゲストが2名ほど 14 時の時点でまだ食べ始める事が出来ていなかった事が残念であった。計画の立て方を再度検討するほか、急遽計画外のことが起こった時に対処できるよう、全職員が計画内容を把握しておく必要がある。	み

7月	ミックスジュース	フロアで2種類の飲み物を提供。1つはゲストが果物を切り、ミックスジュースを作り、1つは炭酸水に食紅で色をつけて涼しげに演出し提供した。	み
	そうめんバイキング	大きな寿司桶に冷やしそうめんを氷水と盛り付け、各テーブルに職員が回った。オリーブ素麺と、にぎりを各テーブルに置き、見た目も楽しんでいただけた。途中で揚げたてのえびの天ぷらを提供した所、とても喜んで食べられた。しかし材料費の関係上1人1尾しか出すことが出来なかった。	み・SS
	家族食事会	ゲスト2名とご家族1名で少ない人数での実施だったが、お二人とも笑顔で会話を楽しまれていた。食後のかき氷は、作る時の大きな音を聞き、楽しみにされ、ご自身で蜜を選んでいただき、たっぷりあんこを添えて提供し、珍しいと好評であった。	み
8月	かき氷	1Fでいちごとメロンから選択。あんこ、ポッキー、コンデンスミルク、フルーツ2種を盛り付け。屋台風に提供し、自分で盛り付けもできるスペースを準備した。	み・SS
	かき氷(夏祭り)	かき氷とラムネを3Fの夏祭りの露店の一つとして提供した。	み
	お好み焼きバイキング	お好み焼き3種、(豚、すじこん、キムチ)、ヤキソバ、食後のデザートにスイカを提供した。ソースの匂いがフロアに充満し、熱いなぁとおっしゃいながらアツアツの粉もんを食べられる姿が印象的だった。	み・SS
9月	穀物祭り	土鍋で炊き込みご飯をゲストと時間を計りながら作った。ご飯の香りにフロアが包まれ食事の意欲をかきたてた様に思われた。「アツアツやな」「ご馳走やな」と笑顔があり、おにぎりは寿司桶にお寿司の様に盛りつけてゲストに選んで頂いた。	み
	パンバイキング	メニューの一部であるが、焼き立てパン数種と飲み物(レモンティー・ストレートティー・コーヒー牛乳)を選択していただき、何度もおかわりされるゲストがおられた。	み・SS
	家族食事会	大人数での食事会であった。突然の人数変更が3家族あり、課題となった。巻き寿司を中心にしたメニューであり、ゲストも手にもって食べやすく満足していただけた様子はあるが、配膳がスムーズに行えておらず、見直しが必要である。	み
１０月	秋バイキング(秋刀魚の塩焼き)	骨無と骨有秋刀魚、カレイの３種類を準備し、去年が少し足りなく感じたので、増やした。	み・SS
	家族食事会	鯛の塩釜を行い、参加ゲスト、御家族へ提供した。	み
	秋刀魚祭り	秋刀魚と焼き芋を焼いている風景を演出し、フロアに匂いをいれた。秋刀魚はすべて骨有で提供したが、ほとんどのゲストがきれいに骨をのこして摂取されていた。『美味しかった』の声が多くあった。	み
１１月	全館　焼き芋	玄関で炭で焼いた焼き芋を提供した。雨が降りそうな為、テントを３個用意し対応した。みなさん、大興奮で笑顔が多く見られた。	み・SS
	土鍋バイキング	土鍋ご飯をフロアで炊き、半月盆に見た目、彩よく盛り付け、天ぷらも好評であり手でどんどん食べる姿が見られた。	み・SS
	おでん祭り	テーブルごとではなく、ブロック毎に配置する担当を決めて実施した。各テーブルに土鍋を設置し、ゲストは鍋を開けた時の湯気にも喜ばれていた。	み
	家族食事会	ゲストと共に草餅を作った。	み

１２月	串揚げ	開始から終了までスムーズに行えた。串の種類は１０種類。量も問題なかった。	み・ＳＳ
	家族食事会	ゲストと共にジャガ芋餅を作った。	み
	クリスマス忘年会	おやつと土鍋ご飯を行った。ゲストと家族への土鍋ご飯の見せ方がもう少しうまくいけば良いと思われた。（土鍋を目の前では行わなかった為）	み
	クリスマス会	出し物に続いて、ゲストと一緒にケーキを飾りつけした。	み・ＳＳ
１月	おせちバイキング	松花堂弁当箱３段に各テーブル毎に盛り付けて提供した。一番下の段には、色とりどりのねり切りを並べ、お屠蘇ともに提供した。	み・ＳＳ
２月	鍋＆雑炊パーティー	１Ｆ給食委員が変更となり始めての食事行事であり、環境面を整理するべき反省点はあるが、ゲストには好評であった。蓋を開ける際の湯気に声も上がり、前年の鍋料理につづき好評であった。	み・ＳＳ
	鍋パーティー	中止（感染症流行）→２月に延期した。	み
	３Ｆお茶会	おやつをゲストと作り、各ゲストへ半月盆でお抹茶と配膳し、お茶をたてていただいた。ほとんどの方が楽しそうに、ご自分で飲むお茶を茶筅で作られ、苦い、薄い、美味しい等感想を同テーブルのゲストとおっしゃっていた。	み
３月	鍋パーティー	２月に感染症流行により中止となった鍋パーティーを３月に実施。キムチ鍋とちゃんこ鍋の２種類で実施し、お好きな方の席についていただいた。食べるスピードもいつもより早く、雑炊も好評であった。	み
	串揚げ祭り	１１種類の串揚げをフロアで作り、揚げたてを提供した。ご本人に食べたい串揚げを選んでいただき、おかわりを希望されるゲストも十分提供することができた。	み
	サンドイッチバイキング	バスケットの中に、サンドイッチの他、手に持って食べる事ができるメニューを盛り付け、各テーブルに置き、軽食ランチの雰囲気を作った。ハンバーグシチューは熱々をフロアで盛り付けて提供した。面会に来られていた御家族も楽しまれていた。	み・ＳＳ

１０．　≪行事等の実施内容・反省点≫

＜毎月定例行事＞

行事名	部署	反省等
家族 食事会	1・3F	その月の誕生者がご家族と共に、食事をする時間を提供している。 マンネリ化してきた誕生日会をゲスト、ご家族により思い出に残して頂ける会をするために担当者と話し合いながら周囲の飾りつけや、テーブルの飾りなど誕生日や季節感を味わっていただけるように工夫している。次年度は誕生日カードの変更やアンケートをとりゲストや家族に満足して頂ける会にしていきたい。
メイクボランティア	1・3F	化粧ボランティアに依頼し実施している。終了後、表情が穏やかになり、笑顔も多く見られた。普段聞かれない言葉が多く聞かれ、好評であった。
園外買い物	1F	セリオへ行き、思い思いの過ごし方をされている。園内での食事とは違った摂取状態が見られた。今後に活用していきたい。

<table>
<tr><td>くもん式
学習療法</td><td>1・3Ｆ</td><td>参加者６名～10 名程度。3 回/週を目途に学習療法士を取得した介護職員より実施している。
効果測定として、ＦＡＢ検査・MMＳＥ検査を学習療法の参加前後に実施し、一部の参加ゲストに対し認知力の向上が見られた。ＡＤＬやＱＯＬでの変化も見られ、あまり自発的な発語のなかった方が積極的にお話されるようになったり、療法自体が生活上の楽しみになった方等、様々な効果が得られている。職員にとっても、ゲストとゆっくりとコミュニケーションが取れる場面となっており、学習療法を通して得た情報を普段のケアに用いる姿も見られる。ゲストにとって、楽しみの一つとなるように取り組んでいきたい。</td></tr>
<tr><td>園芸療法</td><td>1・3Ｆ</td><td>園芸療法士より１回/月の指導を仰ぎながら、職員と参加ゲストで植物を育て、下記のように季節に応じた製作作業を実施している。
入退院や体調不良等により、月１回の実施を継続出来なかった方もおられる。また、ＡＤＬやＱＯＬ等の維持向上においての、効果測定や結果の部分が図りにくいところもあるが、園芸中においてはどのゲストも集中され取り組まれている様子がみられた。
<table>
<tr><td>４月</td><td>二人でパンジー鉢植え</td></tr>
<tr><td>５月</td><td>フラワーアレンジメント</td></tr>
<tr><td>６月</td><td>芝人形</td></tr>
<tr><td>７月</td><td>葉っぱのエプロン作り</td></tr>
<tr><td>８月</td><td>花瓶作製</td></tr>
<tr><td>９月</td><td>生け花</td></tr>
<tr><td>10 月</td><td>鉢植え</td></tr>
<tr><td>11 月</td><td>クリスマスツリー</td></tr>
<tr><td>12 月</td><td>門松</td></tr>
<tr><td>１月</td><td>感染症蔓延にて中止</td></tr>
<tr><td>２月</td><td>画用紙でひな人形</td></tr>
<tr><td>３月</td><td>花の切り抜きシート</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>音楽療法</td><td>1・3Ｆ</td><td>毎月４回音楽療法士の講師と職員で実施している。
季節の歌、馴染みの歌を中心にセッションを実施したことにより、音楽を通して楽しい穏やかな交流の場の提供が出来たと思われる。毎回、固定曲を使用することは、ゲストの記憶力の維持に効果があり、集団セッションであっても、一人ずつ発声をすることで、自己表現の拡大と自信の回復を促すことができる。特に身体活動と楽器活動は、集中して行われ、満足感を得ると共に機能低下予防に大きな効果があると考えられる。歌を通した人との交流は、周囲への関心が広がり、充実感・安心感・協調性につながっていると思う。今後も一人でも多くの人とのコミュニケーションをとり楽しい時間を過ごして頂きたいと考える。</td></tr>
</table>

＜年間行事＞

日付	行事名	部署	内容
４月６日	園内お花見	3F	園庭で桜餅を提供する計画であったが、悪天候の為、園内での行事となった。『抹茶をたてる方・餅を包む方』等、ゲスト一人一人に役割を持って頂くことも出来、計画通りに実行できた。
４月８日	お花見外出	3F	太山寺の桜を見物し３名のゲストが外出する。その中、１名

			のゲストに関してはご家族もお招きし、共に過ごす時間と満開の桜を見て頂くことが出来、計画通りであった。
4月10日	お花見バイキング	1F	園庭で実施したが大好評であった。しかし少し外に出て頂く時間が早くなり日差しも強く、帽子が足りなく今後外で行う際は注意したい。
4月24日	春のおやつ作り	1F	桜餅作り。生地を焼く、餅を丸める、包む、盛り付ける工程ごとに役割分担しゲストは作る事に役割を感じて頂けた。
5月8日	おにぎりバイキング	1F	お寿司風に盛り付けされ、ゲストからは大好評であり、あっという間におにぎりがなくなってしまった。
5月9日	願い事叶えます	1F	懐かしの場所訪問の巻。 2名のゲスト様と昔働かれていた北区にある皮膚科、須磨区にある自宅と訪問でき記念写真をとりご満悦になられた様子。2人ともお昼は、焼肉、お寿司と別々のものを食べたいと話された為、北区の「スタミナ太郎」でバイキング形式でどちらも食べられ満足されておりまさに願い事叶えますにふさわしい行事となった。
5月11日	母の日お祝い	3F	毎年恒例の母の日のお祝いを実施。今年は母の日当日までにも花瓶作り等を行い、コミュニケーションの場を測る機会が増え、また1週間ほど前から「5/11母の日お祝い」という掲示を行い、その掲示物を見て「もうすぐ母の日なんやね」「私のお母さんは厳しい人やったんよ」等、お母さんとの思い出話を伺う事が出来たこともよかったと感じる。
5月20日	園外買い物	3F	過去に同地区に住まわれていたゲスト2名を西神南周辺にお連れした。買い物中、両氏とも動物が好きで、ペットショップの犬や猫を見て、「可愛いね」と笑顔になられ、良い気分転換になったのではないかと思う。
5月25日	パンバイキング	3F	職員がパン屋に扮し配膳を行うなど雰囲気作りも行い和やかな雰囲気で行えた。食事摂取量が減少傾向にある、ゲストが菓子パンは4つ召し上がられた事から、改めて甘いものなら摂取される事がわかった。
6月13日	中華バイキング	1F	オードブル形式にし、ゲスト自らとられ、あっという間に終わった。もう少し量が多くてもよいと感じた。
6月15日	父の日	3F	恒例であるカーネーションを止めて、男性ゲストにひまわりをプレゼントした。ご家族が来られていたゲストの方は、一緒に写真に入って頂く事が出来た。
6月17日	駄菓子バイキング	1F	定例の駄菓子屋さんと、今回はえびせんも準備し、ゲストに名前をききソースで記入し青海苔をかけると大好評であった。
6月19日	園外買い物	3F	2名のゲストからのお声を元に、西神南へお連れした。買い物を終え、喫茶店にもお連れし計画通りに実行出来た。
6月24日	願い事叶えます	1F	東山商店街にもう一度行きたいの巻。 5名のゲストの方と昔よく買い物に行かれた東山商店街に買い物。昼食はお好み焼き屋で鉄板の上でお好み焼きを食べられ参加者は多く笑顔見られた。
6月25日	思い出の地でお墓まいり	3F	ご家族付き添いの元、一人のゲストを三木までお連れし、約16年ぶりにお墓参りの機会を設けた。その後、お好み焼き

			屋・スーパーにも行った。
6月26日	レッツ！粉物祭り	3F	お好み焼き・たこ焼き・焼きそばの提供を行った。反省点としてホール全体の雰囲気作りが課題と感じ、それに至った経過には準備不足が考えられた。
6月29日	外出（K様）	3F	満100歳を超えるK様と共に近隣の喫茶店へ出掛けた。ご自身で好きなケーキや飲み物を選び、美味しそうに摂取する様子がみられている。
6月30日	外出（K様）	3F	『我が家へ』と題目で、長年住まわれていた自宅へお連れした。ゲスト・ご家族共に涙を流される様子もあり、当初目的や計画は達成された。
7月4日	ご主人と再会in大阪	3F	ご家族付き添いの元、ご主人が入所されている大阪（特養）までの送迎を行った。出会う場面ではご主人が花を用意し、再開した妻に手渡し、涙される場面は感動的だった。後、昼食を一緒に食べ、何も問題なく大慈園に帰園された。
7月8日	Shake! Mixジュース祭り	3F	夏をテーマに、ジュース祭りを開催。新鮮な果物をミキサーにかけ、提供すると、『おいしい』との言葉をたくさん頂戴した。
7月10日	素麺バイキング	1F	職員ははっぴをきて季節感を感じて頂ける様に配慮。飾りつけも、海をイメージした涼しい雰囲気を作りだした。また、そうめんも好評であったがえびの天ぷらも出来たてで好評であった。
7月30日	願い事叶えます	1F	しあわせの村に行きたいの巻。 N様、E様、H様、としあわせの村でビユッフェ。散策。ご家族様より「一緒に過ごせる時間が思い出の場所でとれてよかった」と好評であった。
7月31日	思い出の地～長田神社へ	3F	ゲストより『長田神社へ行きたい』との思いを形にするため、企画立案し職員とともに長田神社参拝を実施。後、行きつけの喫茶店に向かい、ミルクティーを飲用した。
8月1日	かき氷屋さん	1F	お店風にしてするのが初めてのこころみ。盆踊りの曲、法被を着て雰囲気作りはできた。歩行が不安定の人も歩行して店に来ていただいたため、かき氷を手渡しできなかった。
8月10日	夏祭り＆花火大会	3F	外は台風直撃であったが、中は大盛り上がり。昨年度の課題を改善し誘導を含めてスムーズに実施出来た。夜には台風も通過し花火大会も行え
8月11日	願い事叶えます。	1F	故郷へ帰る。淡路島編の巻。 3名のゲストと共に出発するが、店がつぶれていたり、歩行器を忘れていたりと問題はあった。しかし、墓参り、家へ帰る事は大好評であり、ご家族も大満足であった。
8月14日	お好みバイキング	1F	ホットプレートで温めてソースの匂いを漂わせながら、ゲストの食欲を高める事が出来た。手掴みで食べる人も多く好評であった。
8月19日	学童交流会	3F	地域貢献活動の一環として大慈社会貢献員委員会計画により、井吹東児童館・井吹北児童館の学童をケアハウス大慈にてゲストと交流会を開く試みを行った。終了後にはゲスト・学童双方より感謝の言葉を頂くことができた。

9月5日	願い事叶えます	1F	明石魚の棚で買い物したいの巻。 4名のゲストとご家族、ショートステイのゲストが参加。昔魚の棚で買い物をされていたメンバーを選定する。着いた際に「ここは明石や。魚の棚や」とゲストから話されたり、昔通っていた店のおかみさんを探しに店に行かれたりされ各々で充実した時間を過ごせた。
9月5日	秋を呼ぶ穀物祭り	3F	計画通り実行でき、土鍋ごはん等、秋を連想させる具材を使用しゲストへ提供した。美味しいとの言葉多く、好評であった。毎日して欲しいとの言葉も聞かれた。
9月6日	願い事叶えます	1F	K様旦那様のお墓参りと住吉の自宅へ帰るの巻。 娘様が作られたミキサー食を摂取されたり、台所へ行くと涙を流された。22日に永眠されたが、よい看取りにもつなげる事が出来た。
9月10日	お好み焼きツアー	3F	普段コミュニケーションの中で「お好み焼きを食べたい・昔店を開いていた」と言われるゲスト2名対象に、伊川谷のお好み焼き屋までお連れした。
9月11日	パンバイキング	1F	焼きたての温かいパンを食べて頂く。レモンティーとストレートティーとコーヒー牛乳を選択して頂きグラスに氷を入れて飲んで頂く。好評であり、何度もおかわりされるゲストもおられた。
9月27日	願い事叶えます	1F	春日野道のお墓参りと宝塚を見に行きますの巻。 お墓参りは、氏の過ごされた女学校の前にあり「学校が大きくなった」と言われ認知症があるものの、昔と現状を比べることが出来て本人にとってよい刺激になったと考える。
10月7日	願い事叶えます	1F	西神中央で買い物と外食したいの巻。 3名ゲストが参加。それぞれに欲しい物をご自身で選んで頂き、買い物を楽しんで頂けた。また買い物後にお好み焼き屋に行き、鉄板を囲んで、ゆっくりと楽しい時間を過ごす事ができた。反省点として、時間配分が出来ておらず、帰園時間が予定より遅れてしまった事が挙げられる。
10月9日	秋刀魚バイキング	1F	秋刀魚とデザートはサツマイモの春巻きで、秋らしい食材にこだわった。しかしメインを秋刀魚だけにした為、おかわりをされるゲストが少なく、物足りなかったと感じる。骨付きの秋刀魚の骨を綺麗に取って召し上がられる方が多くおられた。
10月10日	願い事叶えます	1F	釣りに行きたいの巻。 3Fゲストと4名参加。釣り具屋で餌を選び、大蔵海岸で釣りを楽しんで頂いた。それぞれに小さいが魚を釣ることが出来、とてもよい表情を見ることが出来た。外食は、王将で焼餃子など、普段、園では食べれない物も召し上がって頂けた。
10月27日	秋刀魚まつり	3F	昨年に続き、大好評の秋の名物行事を実施。そして今回も秋を感じられる雰囲気と共に秋刀魚の香りが漂い、ゲストからも大好評の声が上がった。大成功であった。

11月7日	願い事叶えます	1F	喫茶店に行きたいの巻。 3名ゲストと近くの喫茶店へ行く。メニューの中から食べたい物を選ばれ召し上がって頂けた。落ち着いた喫茶店で、普段以上にゆっくりゲスト様と関わりを持つことが出来た。
11月13日	土鍋バイキング	1F	3種の炊き込みご飯をホールで、土鍋を使い炊く事でいい香りがホール内に漂い食欲を増進されたのか、何度もおかわりをされるゲストも多く、好評であった。
11月15日	再会　夢前リハビリセンター	3F	リハセンターに入院されている息子様(次男) と面会。認識までに時間が掛かる様子であったが、久しく、数時間であったが、共に過ごされる。ご家族の希望でもあった為、叶えられたことで喜びを感じておられた。
11月21日	皆で温もろ！おでん祭り	3F	冬の到来を感じられる行事をコンセプトに「おでん祭り」を開催。土鍋で温もるおでんはゲストの食欲を掻き立て、「おかわり」の声が大く聞かれ、大好評であった。
11月30日	願い事叶えます	1F	西神南の自宅に帰るの巻。 ターミナル対応となり急遽、ご家族の協力もあり、以前旦那様と住んでおられた自宅へ帰る事となる。自宅には、妹様夫婦、お孫様、娘様夫婦が出迎えて下さり、旦那様のご仏壇に手を合わす事も出来た。娘様より、「また帰ってくることが出来て良かったです」とのお言葉を頂けた。
12月10日	願い事叶えます	1F	懐かしのデイサービスで過ごすの巻。 何処か行きたい所はあるかを尋ねた際、「行きたい所はない。大慈園が好き。」と話された事から、入所前に通われてたデイサービスへ行く事となる。顔馴染みの方や懐かしいデイの職員とも話をされ、以前通われていた頃の話も懐かしそうにされており昔を懐かしむ良い時間が持てた。
12月11日	串揚げバイキング	1F	串揚げの種類を増やし、全ゲストが見える場所で串揚げを揚げてもらい、揚げたての串揚げを召し上がって頂いた。クリスマスソングを流し、賑やかな雰囲気と香ばしい香りの中で、沢山召し上がって頂く事が出来た。ショートステイゲストにも「毎回バイキング楽しみ」との言葉を頂けた。
12月12日	思い出のあの家へ	3F	長年住まわれていた自宅へ、ご家族と調整を図りながら一人のゲストをお連れした。普段みられない表情や多くの発言、そしてご家族も喜びを感じ、本当に有意義な時間であったことが考えられる。
12月23日	３階クリスマス会	3F	今回参加されたご家族は59名。昨年度から始まった、ご家族を招いたＸｍａｓ会。昨年参加されていないご家族からも大好評の言葉を頂き、無事、企画が終了した。
12月25日	クリスマス会	1F	今回は2部に分けて行い、1部で職員出し物の組体操とハンドベルの演奏を行う。2部では、クリスマスケーキの飾りつけをゲストと一緒に行い、召し上がって頂き、サンタからのプレゼントをお配りした。組体操は好評であり、何度もアンコールをされ熱心に見て頂けた。ハンドベルは、一緒に歌われる方も多くおられ、盛り上がった。

1月1日	おせちバイキング	1F	各テーブルにおせち料理の入ったお重を置き、見てもらう事でお正月を感じて頂く事も出来たと感じる。それぞれに食べたい物を選んで、ご自分で取って頂きながら召し上がって頂く事も出来た。
1月4日	諏訪神社　初詣	1F	ショートステイゲスト3名、プラム棟9名のゲストと一緒に2便に分けて初詣実施。外出されること自体を喜ばれ、神社でのお参りでは、他の参拝客もおられた中、新年の始まりを感じて頂けたゲストもおられた。比較的暖かく、天候にも恵まれた中、事故なく実施出来た。
1月23日	新春・お茶会	3F	音楽の準備や飾り付けも少なく、盛り上がりに欠けた。又、事前説明ポスターと実物のお菓子の変更があり、ゲストより疑問の声があがった事を考えると満足して頂ける行事が開催できなかった。
2月3日	節分（豆まき）	1F	男性職員3名が鬼の衣装を着て、ゲストの前に登場。「キャーこわいわ～。」と驚かれるゲストや、豆に見立てた玉を必死で投げるゲストもおられた。鬼のパフォーマンスも大げさで職員が鬼だとわかると、なおさら必死に玉を投げたりと、笑いあり笑顔で豆まきをされ大変盛り上がった。
2月17日	願い事叶えます	1F	東山商店街に行きたいの巻。 ゲスト4名と一緒に東山商店街へ買い物と昼食を食べに行った。昔から馴染みのある商店街に到着すると自然と笑顔が見られた。果物や衣類などそれぞれに欲しい物を選ばれ、店員にお金を渡し購入されたりと、久しぶりの買い物を楽しんで頂けたと思う。
2月23日	願い事叶えます（西神南）	1F	ゲスト3名とご家族様の参加にて、西神南のセリオに買い物と昼食にお好み焼きを食べに行った。お好み焼きは好評で、黙々と食べられるゲストもおられた。久しぶりの買い物で、色々な物を見て楽しんで頂けた。
2月24日	鍋バイキング	1F	各テーブルにちゃんこ鍋を置き、ゲストの前で鍋の蓋を開けると湯気の出ているアツアツの鍋を見て、「おいしそうやなぁ。」と笑顔になられるゲストや、自ら鍋に手を出されるゲストも多く見られた。季節柄、温かい食べ物は好評であったのか、早い時間で完食されるテーブルが多く見られた。
3月5日	皆で温まろ！鍋祭り	3F	ゲストの方から「また食べたい」との声、多く聞かれ大好評に終わった。又、職員人数も確保されていた為、満足いける配慮や空間作りもでき、納得できる祭りとなった。
3月7日	願い事叶えます	1F	金婚式のお祝いの巻。 ターミナルゲストの結婚50周年のお祝いをこっそりと準備し、当日ご主人に来ていただきお祝いを実施することが出来た。プラム棟ゲストの皆さんから拍手でお祝いをして頂き、なれそめや若い頃の話をご主人様より聞くことが出来た。願い事の企画としてはサプライズ形式となったが、喜んで頂けたと感じる。
3月23日	串揚げパーティー	3F	パーティーに関してはゲストから大好評であり、実際に食されている手の動きや表情からみても、満足されている様子がうかがえた。

3月27日	サンドイッチバイキング	1F	バスケットにサンドイッチ、揚げ物やウインナーなど手でつまめる食材を盛り付け、各テーブルにセッティングした。自ら手に取って召し上がられるゲストは、数名であったが、職員が各テーブルで選んでお渡しし、沢山召し上がって頂けた。中でもサンドイッチは一口サイズで食べやすかったのか、大好評だった。

１１．≪職員会議・ＯＦＦ－ＪＴ≫

頻度	会議名				
月１回	看取り・褥瘡委員会	事故再発防止委員会	サービス向上委員会	感染症防止対策委員会	事業戦略推進委員会
	369会議	主任会議	行事委員会	部門会議	給食委員会
	マナーアップ委員会	全体会議（1F・3F）	非常災害時対策委員会	デイ検討委員会	正副施設長会議
	人事委員会	研修委員会	予算委員会	広報委員会	
	オムツゼロ委員会	医療的ケア推進委員会	労働衛生委員会	社会貢献委員会	
随時	ケアカンファレンス		人事検討委員会		

日付	研修会内容	参加人数
4／23	昨年延期分。健診結果分析と腰痛対策。	52名
5／28	音楽・園芸・学習療法の実践報告と５Ｓ活動。	33名
6／25	褥瘡事例報告と看取り事例報告。	38名
7／23	危険予知訓練と感染拡大防止策。ノロって？（劇）	40名
8／27	図上訓練とグループワーク。	35名
9／10、9／17、9／24	高齢者虐待防止研修（全職員）。	90名
10／22	医療的ケアとは、吸引演習。	24名
11／26	D-1グランプリ	50名
12／17	健診結果分析と腰痛にならない介助。	31名
1／28	感染症蔓延にて延期。	
2／25	危険予知訓練の実践と手洗いチェッカー。	31名
3／25	昇級者発表、被災地介護を経験して等	32人

１２．≪会議等の実施内容及び反省点≫

①ケアカンファレンス（原則毎週水曜開催）

→ご家族・担当者（CW等）がより良いサービス提供する為に開催。その際現状報告と前回会議後からの経過等も報告した。又、新入所や状態変化のあるゲストに対応できる様努めた。

②人事評価検討会議（年４回程度）

→人事評価の検討会議。新制度熟成に焦点をあて、目標管理制度の習熟度を向上させるよう図った。しかし、事業計画から個人目標にうまく落とせない管理者もおり、次年度への課題として残った。

③事故再発防止対策委員会（毎月第２水曜日）

→今年度は新たな手法として、ＫＹＴ法の導入への検討・研修等を主に取り組んだ。その目的として、事故に至る経緯の段階を未然に防ぎ、事故件数減少へと繋げる事が挙げられる。勉

強していく段階で、各委員・各現場職員の視点・観点の変化が見受けられて来ている傾向にある。特に、障害物等の取り除きなど、環境整備などが各部署内でも行われて来ている事は良い効果をもたらしていると評価出来る。次年度以降も課題の解決に努めて行き、事故件数の減少へ施設全体で取り組める様にして行きたい。

④感染症防止対策委員会（毎月第３水曜日開催）

→目標であった園内での感染症 0%が達成出来なかったことはとても残念でありマイナス点となってしまった。新年早々にインフルエンザが蔓延、特に 3Ｆのゲストに多く感染してしまった。広がった原因は定かでないが、職員がウイルスを持ち運んでいるのは事実であると考える。又、ゲストの発生状況に応じ適宜、緊急感染委員会を開催し情報共有を行えたことは良かった。来年度は、より一層感染予防を強化していきたい。又、手洗い・嗽の重要性について周知徹底していくことと、嘔吐処理練習も定期的に実施し、園内での感染症発症 0%を達成したいと考える。

⑤サービス向上委員会（毎月第３水曜日開催）

→今年度は、5Ｓ活動に取り組む事で全館で一定の効果は得れている。結果として、場所は限定されるが日々の整理整頓が行えるようになった。今後も継続的に取り組む事で業務効率やサービスの質の向上に繋げていきたい。

⑥行事委員会（毎月第３月曜日開催）

→楽しい大慈園をモットーに園内外で行われる行事を企画、運営している。又、広報活動として「だいじの森(機関紙)」の編集を行っている。次年度から行事委員会は広報委員会に吸収となるが、蓄積したノウハウを引き継ぎたい。

⑦非常災害時対策委員会（毎月第４水曜日開催）

→今年度は、各部署でＢＣＰ作成を行い、ＯＦＦ−Ｊ Ｔで初めて図上訓練を行った。参加職員は興味深く災害時の行動確認を行い、マニュアルの見直しができる貴重な意見が多く挙がっていた。福祉避難所としてのＢＣＰの詰めは来年度に持越しとなったが、心構えを含め災害への備えにむけて前進できた。今年度は災害・防災に対する予防の面について触れる機会が少なかったため、来年度の課題である。

⑧看取り・褥瘡委員会（毎月第４月曜日開催）

→「安心して死ねる場所」を合言葉に、園で自然な形での最期を望まれるゲストに、より良い最後を迎えて頂く為の援助、環境整備等の検討を行っている。

今年度は、家族会の開催という新しい取り組みを行い、初回にも関わらず総勢 58 名という多数のご家族様に参加していただき、「看取りケア」に対する興味や関心の高さがうかがえた。初めての家族会ということもあり、準備等反省点もあったがご家族様には概ね好評で看取り介護の理解の一歩を踏み出すことができたように思われる。来年度に向けても看取りの家族会の開催を定期的に行う事で、大慈園での看取りを周知することにより看取りへの導入をスムーズに行うことが出来るよう援助していきたい。

⑨給食委員会（毎月第１水曜日開催）

→嗜好アンケート、食事行事などの年間計画は順調であったが、委員の変更等がつづき、スムーズにできない事もあった。特に、ゲストに楽しんだく食事行事では、職員自身がゲストの可能性を見出すことができても次へつなげることが難しかった。次年度は、嗜好調査や食事行事の反省などから、食事内容や提供方法の変更を行う。ゲストより、多くのおいしいの言葉をいただけるよう取り組んでいきたい。

⑩マナーアップ委員会（毎月第４木曜日開催）

→Ｄ－１グランプリというイベントを初めて実行した。シーツ交換を時間内にペアで行い、きれいさを競うものだが、非常に好評であった。終了後、問題点が出てきて改善していくところは多々あるが、多くの職員が次年度も開催したいとの声が挙がっていたため、更によくす

るため検討したい。

⑪一元化委員会（毎月第３月曜日開催）

→様々にあるゲスト情報をケアプラン中心とした情報に整理すべく、開催された委員会であるが、規模が大きく、具体的なアクションが難しい取り組みであった。今年度はアセスメントシートの作成に重点的に取り組むが、シートの完成には至っていない。インテーク場面での聞き取りが強化された事は一つの成果と考える。

⑫医療的ケア委員会（毎月１回開催）

→今年度より再稼働。ドキドキ報告書の改善によりリスク評価を検討し数値化していくことで、研修や教育内容の優先順位が明確になるため、システム改善したことは評価できると考える。ドキドキ報告書の記載や検討が無駄にならないように、研修への活用を実施していきたいと思う。また今後の対策を検討していく中で、課題は「手順の厳守および見直し」が殆どであるため、今後はその方法に関してＯＦＦ－Ｊ Ｔ以外でも実施可能な機会を模索していきたい。

⑬学習療法推進会議（毎月１回）

→今年度は成果の測定を行った結果、参加者の 76%の方が数値上で、一定の効果を得ていた事が分かった。療法との名の通り、ある程度の専門性・技術を要する為に、全職員に徹底する事が困難である。今年度は学習療法を実施している職員を対象にアンケート調査を行ったが、手技が分からず疑問を持った職員が多数いる。専門的なケアへ落とし込む事が最終的な目標であるが、効果を正確に把握する為にも支援者のスキル向上を図っていく必要を高く感じる。

⑭事業戦略推進委員会（毎月１回開催）

→老人部門の全事業所が集まり、法人内の共通の課題に対して様々な取り組みを行っている。今年度は、主に「「新卒採用計画」の実行等を行った。リクルーター（新卒採用担当者）を任命し、学校への営業活動や就職フェアへの参加等を行った。施設毎に行っていた採用活動を一本化し、新規事業の採用にも貢献した。次年度も更に計画を充実させていきたい。

⑮大慈労働衛生委員会（毎月１回）

→職員の労働環境改善のため、各職種が集まって開催している。今年度は、職員健診結果で、「脂質異常症」と連続２回診断された介護職員に対する面接を実施した。意識向上に役立ち改善がみられている。

⑯大慈広報委員会（毎月１回）

→大慈広報委員会として委員会活動を本格的にスタートした 26 年度。ホームページの集客実績、ユーザー数 16297 名（前年度約 6000 名）となり、約 2.8 倍の集客を達成。採用活動を目的においた委員会活動は、実際の就職率とは即していない面もあるが、就職フェアのブース作成等、新たな取り組みも実施。市場の動向からみて、人材不足や魅力の向上等、業界の広報活動はまだまだ成長及び向上していくべき重要な要素とし捉えられる。より市場のニーズに合わせた、鮮度・頻度の高い情報発信が求められる。

⑰大慈人事委員会（毎月１回）

→年度中頃までは評価者に対する、スキル・知識の向上に重点を置いて取り組む。直接の起因となっているかは不明確であるが、人事検討委員会での結果検討表の充実が図られた事は一つの成果と捉えられる。年度後半では、新人研修について、全施設で見直しを行う。業界全体で人材不足の問題が大きくなっている事を重く受け止め、引き続き魅力的なキャリアパスを描けるよう注力したい。

⑱大慈研修委員会（毎月１回）

→新人研修や辞令交付式等、法人間の研修等を実施している。新人研修において、講師評価や研修者習熟度テストを導入し、一定の成果がでた。次年度も、更に向上させたい。

⑲大慈社会貢献委員会（毎月１回）

→地域行事への参加を実施すると共に、「いきいきライフセミナー」を地域の公民館にて実施

し、健康相談等大慈園が持っている知識や技術を提供できた。次年度は、認知症サポーター育成にも取り組みたい。

１３．　≪リスクマネージメント報告≫

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数（1F→プラム棟、3F→一般棟）

○年度別事故件数

前年度に比べ事故報告 62 件減少となり、これまで一番低かった 24 年度よりもさらに減少。この取り組みとして一定の効果はみられる。

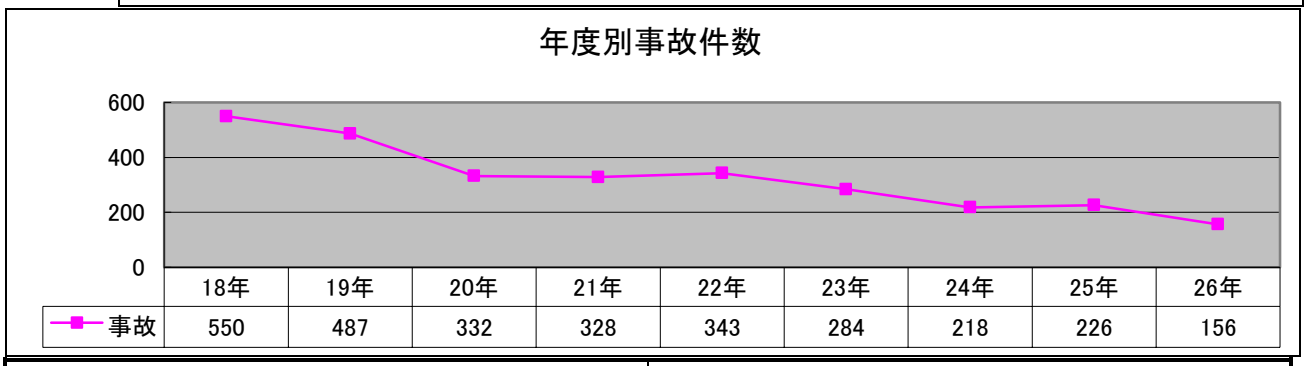
○２６年度報告件数

1F

事故件数は前年度に比べ、60 件減と大幅に減少している。主な要因としてはプラム棟ゲストの入れ替わりが多く、ＡＤＬが向上し転倒のリスクが減った事と、前年度のハイリスク者の立ち上がり減少や立ち上がり時の対応がしっかりと出来た事、誤薬事故の減少がある。また、職員の気が緩んできた（内出血が増えてきた際等）と感じた際に、主任やリスク委員から現場を引き締める為にも、会議での話し合いや啓発ポスターを使用した効果であると考える。搬送等に繋がる重大事故もあったが、対応職員との話し合いの時間を多くもつ事で、意識改善も図れたと考えている。ゲストのＡＤＬが向上している事で、ゲスト同士のトラブルの増えており、今後注意していく必要がある。

3F

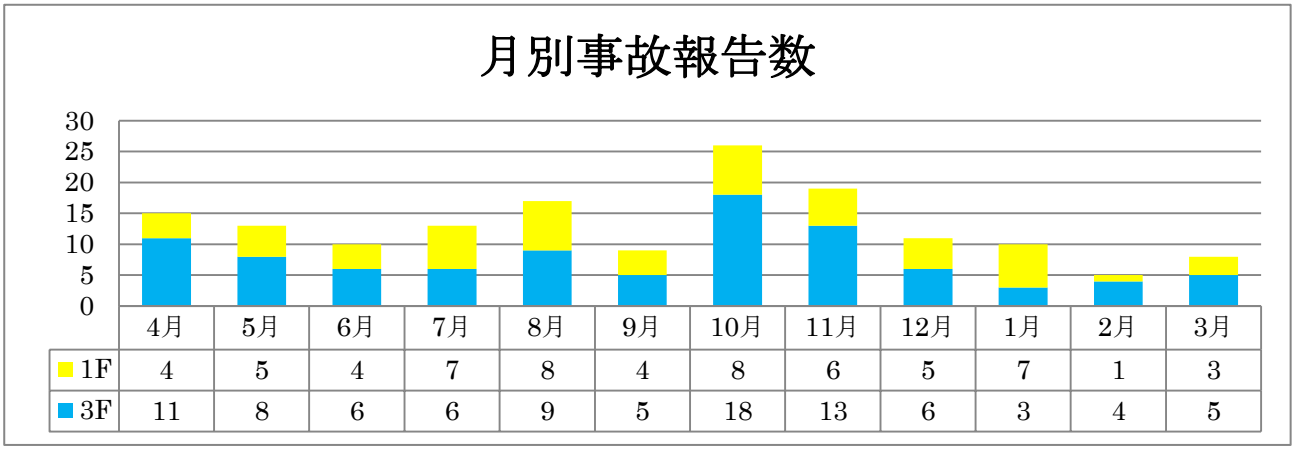
昨年度の報告件数と比較し、減少値を示した。ドキドキ・事故報告件数にバラつきもある。その理由としては、ハイリスク者の入退所や特定ゲストのＡＤＬ低下が重なった事であるが、中には類似事故報告件数が多い月もあった事も事実である。昨年度同様、対策が共有されていなかった事で上手く機能せず、改善に至っていなかった事が原因であった。



26 年度				25 年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	4, 160 件	156 件	4, 404 件		4, 949 件	226 件	4, 723 件

○内訳

26 年度				25 年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
1Ｆ	3, 143 件	62 件	3, 081 件	1Ｆ	2, 831 件	122 件	2, 709 件
3Ｆ	1, 017 件	94 件	923 件	3Ｆ	1, 098 件	104 件	994 件



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1F	4	5	4	7	8	4	8	6	5	7	1	3
3F	11	8	6	6	9	5	18	13	6	3	4	5

②発生場所別件数

1F

ドキドキ件数が3081件に比べ事故件数は62件であり、ある程度迅速に対応できている結果であると考える。食堂での事故が多く、バタバタしている際は事故が少なく、業務にゆとりが出た際に事故が増える傾向があった。ゆとりがある際は職員同士で立ち話ししたり、ソファーで寛ぐ職員もいた。バタバタしている環境をゲストが察し、自粛的な行動になり、結果リスク減になったとも考えている。ゲストの自発的な行動を促す為にも認知症ケアに加え、環境面（常にゆとりのある雰囲気作り）が大切であるが、開放的な雰囲気になる事での新しいリスクも今後は把握する必要がある。ゆとりが出た際には立ち話をせず、ゲストと関わる姿勢を大切に出来る様に、指導を行っていく。

3F

例年同様、居室での割合が最も高い。しかし、昨年に比べ増加数値を示したのが食堂であった。日中は職員1名を配置しているが、ハイリスク者の動向把握が難しい状況になった場面もあり、今後より高い危機管理能力が求められるが、職員間の連携が重要となる。

	居室	食堂	浴室	トイレ	園庭	廊下	ベランダ	その他	その他
1F	3055	65	0	5	3	10	0	5	
3F	934	50	6	12	0	4	6	5	

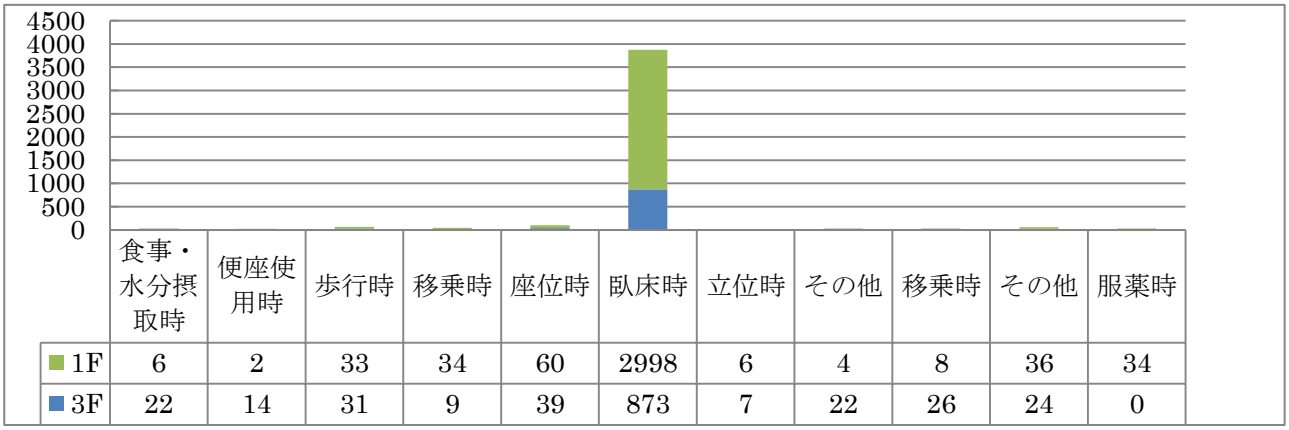
③発生状況別件数

1F

夜間帯でのドキドキが殆どの為、臥床時のドキドキが大半を占めている。歩行時の事故が増加しており、歩行介助時に事故に繋がるケースもあった。適切な介助方法が出来ない（指導しても理解出来ない。忘れてしまう）職員もいた為、業務を限定する対応をとる場面もあった。

3F

夜間のドキドキ件数が多い事で、大半を臥床時が占めている。センサー設定ミスによる事故は減少しているが、入退所・居室変更による選定が遅れた事でドキドキ・事故に繋がったケースもあった。対象者を一覧化し部署内で共有する事で、選定遅れ・ミスを無くし件数の減少に繋げる。



	食事・水分摂取時	便座使用時	歩行時	移乗時	座位時	臥床時	立位時	その他	移乗時	その他	服薬時
1F	6	2	33	34	60	2998	6	4	8	36	34
3F	22	14	31	9	39	873	7	22	26	24	0

④発生内容別件数

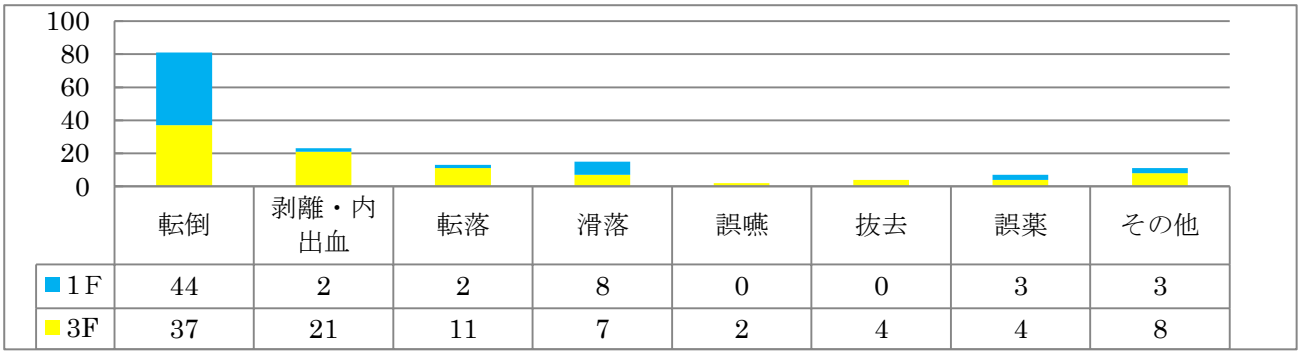
1F

前年度に比べ転倒・異食・誤薬事故が大幅に減少している。ハイリスク者の減少や内服薬の配り間違いが減った事が原因である。異食事故に関しては搬送になってしまい、その後会議等で話し合いをする事で職員の意識は大幅に改善できた結果であると感じており、維持していきたい。

3F

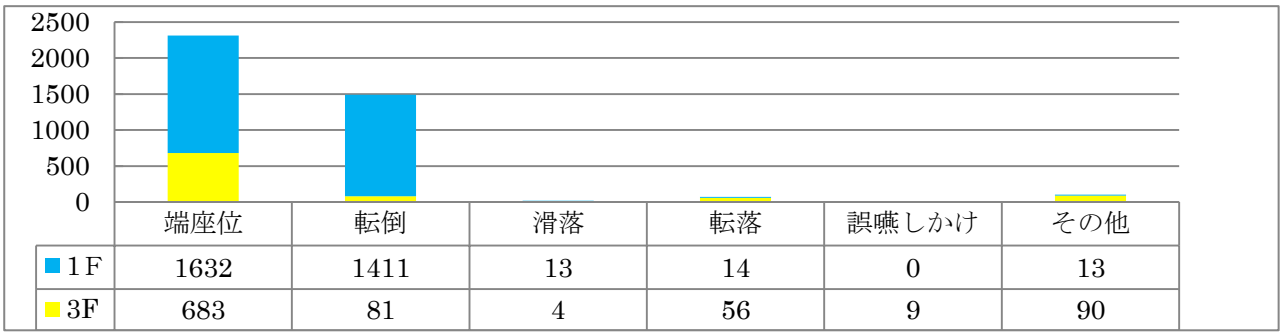
昨年同様、転倒事故件数が最も多い。理由としては、例年に比べハイリスク者のＡＤＬが向上傾向にある為、動向の把握が不十分であった場面が多かった。減少値を示した剥離・内出血件数についても、発見・報告が遅れた事で対応策が十分にいきとどかず、新たな事故に繋がった例もあった。今後、職員に求められるのは観察力及び介護スキル向上であると考える。

○事故内容



	転倒	剥離・内出血	転落	滑落	誤嚥	抜去	誤薬	その他
1F	44	2	2	8	0	0	3	3
3F	37	21	11	7	2	4	4	8

○ドキドキ内容

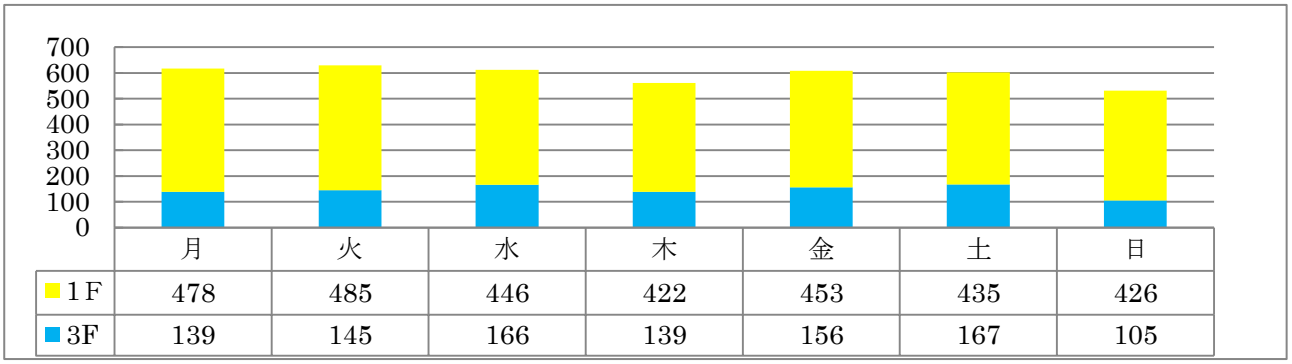


	端座位	転倒	滑落	転落	誤嚥しかけ	その他
1F	1632	1411	13	14	0	13
3F	683	81	4	56	9	90

⑤曜日別件数

1F・3F

曜日別に関しては、ドキドキ・事故共に大きな差は見られない。出勤状況や職員数関係なく、職員の危機管理に対する意識が向上しつつある事が推測される。



	月	火	水	木	金	土	日
1F	478	485	446	422	453	435	426
3F	139	145	166	139	156	167	105

⑥時間帯別件数　　※割合→全体に占める割合

早朝 4：00～6：59	朝 7：00～11：59	昼 12：00～16：59
夜 17：00～22：59	深夜：23：00～3：59	

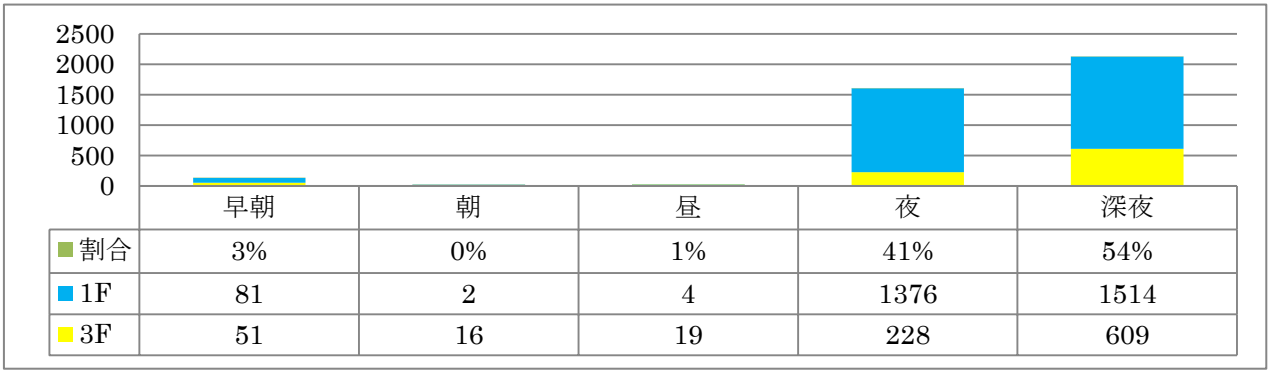
1F

夜間帯より日中の方が事故が多い。夜間帯はセンサー反応に対し、迅速に対応できている結果であると考える。日中の事故に関しては介助ミスでの事故も多く、職員一人一人のスキル向上を図る必要がある。

3F

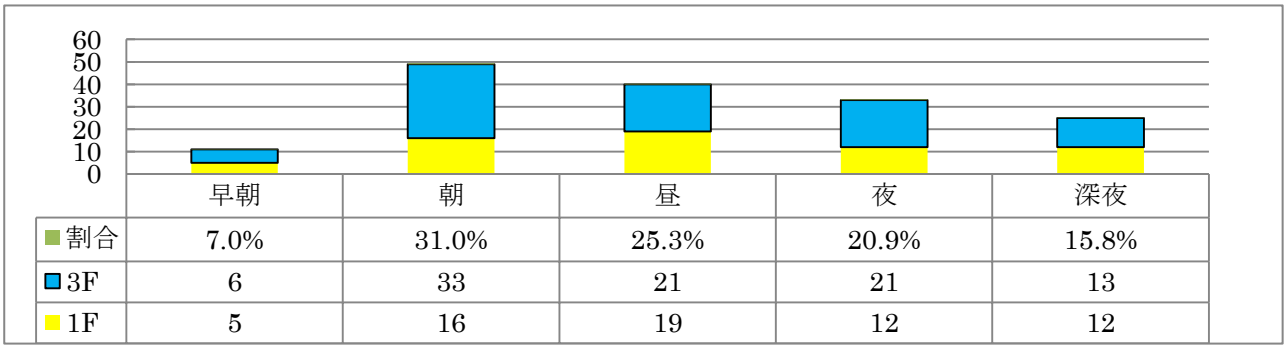
ドキドキ件数が高い夜～早朝に掛け事故発生件数が最も低い数値を示している。考えられるリスクや対策（改善策）が部署内で共有出来ている事で人員が少ない中でも個々が危機意識を持ち行動出来ている事が数値から読み取れる。今後求められるのは、日中のドキドキ件数を上げる取り組みを行い、原因追求及び対策を共有する事が出来れば、事故件数も確実に減少すると考える。

○ドキドキの時間帯



	早朝	朝	昼	夜	深夜
割合	3%	0%	1%	41%	54%
1F	81	2	4	1376	1514
3F	51	16	19	228	609

○事故の時間帯



	早朝	朝	昼	夜	深夜
割合	7.0%	31.0%	25.3%	20.9%	15.8%
3F	6	33	21	21	13
1F	5	16	19	12	12

⑦まとめ

1F

ゲストの入れ替えでＡＤＬがあがった事や、ハイリスク者の減少により事故件数は大幅に減少している。事故報告書の原因・対策を作成者一人で考えるのではなく、リスク委員

を中心に背景を探り話し合いながら解決する方法をとっており、職員一人一人の意識向上や原因・背景に対する正しい目線を持てるように努めてきた。結果、正しい対策を立てれる事が増え、類似事故の減少も図れた。また、原因・対策を一緒に考える事で、職員が一人で抱え込む事が減り、職員が納得した対応策を立案する事で、現場に上手く浸透できたと感じている。人員不足や感染症対応により、バタバタする時間が多かったが、結果的にはゆとりがある時間帯に事故が起きるケースが多く、その時間帯での職員の業務への姿勢改善や、業務内容の見直し等も検討する必要がある。また、ＫＹＴ法の導入により、危険予知のスキルも上げていきたい。

3Ｆ

事故・ドキドキ報告件数が昨年度に比べ減少している。（昨年度：事故 104 件・ドキドキ 994 件）しかし、対策が十分に機能せず類似事故減少には至っていない。理由としては、原因の追究及び対策の評価・改善が不十分であった為である。ハイリスク者への危険意識は向上しつつあるが、職員間での連携が上手くいかず事故に繋がったケースも多かった。又、委員としての助言・指導も不十分であった。次年度においては、危険予知訓練を定期的に実施し、職員一人ひとりの危険意識・チーム力を高め、日々変わるゲストの状態や生活の場に潜む危険、それに対する対策を部署内で共有する事で、類似事故減少を目指す。

１４．　≪苦情・相談結果報告≫

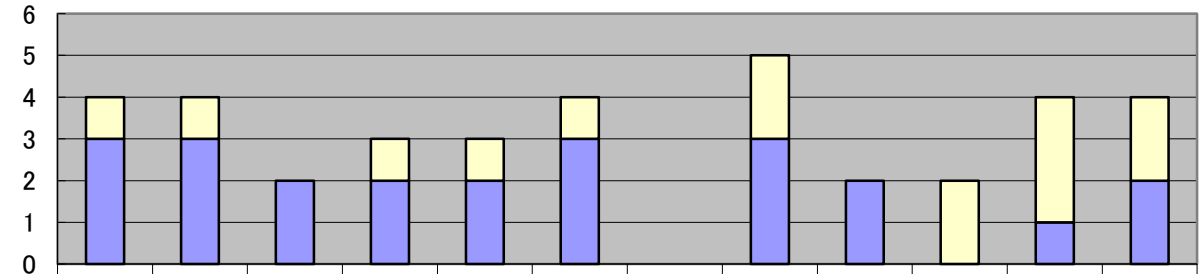
苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数（1F→プラム棟、3F→一般棟）

26 年度				25 年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	37 件	0 件	37 件		80 件	0 件	80 件

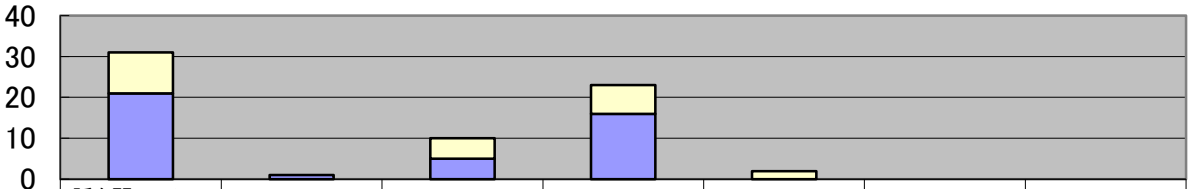
○内訳

26 年度				25 年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
1Ｆ	14 件	0 件	14 件	1Ｆ	16 件	0 件	16 件
3Ｆ	23 件	0 件	23 件	3Ｆ	64 件	0 件	64 件



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1F	1	1	0	1	1	1	0	2	0	2	3	2
3F	3	3	2	2	2	3	0	3	2	0	1	2

要望分類



	話を聞いてほしい	調査依頼	教えてほしい	改善依頼	回答依頼	金銭面	謝罪要求
1F	10	0	5	7	2	0	0
3F	21	1	5	16	0	0	0

※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容

１Ｆ→ゲストより、トイレの声掛けにびっくりする。セクハラ行為を目撃。食事の内容が違い自分だけ少ない。言葉が伝わらなく悲しい等であった。ご家族より持ってきた衣類がタンスに入っていない。体調不良で報告はあるがその後どうなったかの報告がない。面会に来たら両手に内出血があったか報告がなかった等。

３Ｆ→ゲストに関する情報共有・発信能力の低さ。

○まとめ

プラム棟

ショートステイの相談でも見られたがご家族への報告が遅い為に不信感を持たれてしまう事が多い様である。ゲストでは、ちょっとした配慮が足りずに不安感を募らせてしまう事が多かった。ご家族からの衣類がタンスに入っていない事を受け直ぐに対応し職員には周知実施出来ているが、その話以降そのご家族は面会時自ら居室へ行きタンスの整理を行って下さっている。この事から初めに感じた不信感はなかなか回復が出来ない事が理解できる。当たり前の事が出来ない対応の遅さが今後の課題ではないかと思う。

一般棟

報告書の件数が 0 件の月もあり、相談が減少しているように思えるが、潜在的なものを顕在化する必要性があると思われる。また、今年度はご家族からの職員の対応に対する相談や、同じ事故を繰り返してしまったことに対する改善依頼の相談が聞かれた。事故対策と同様に職員一人一人のスキルや意識の向上が出来なければ、来年度も同様の相談が聞かれるであろうと考えられる。組織図を基に、ゲストやご家族の訴えを傾聴し改善していくことが、新たな事故や苦情を未然に防ぐことが出来るのだということを伝え、繰り返し指導していくことで、相談件数の減少を目指していきたい。

１５．　≪総括≫

①プラム棟

今年度より新たな部門となり、各部門での役割分担を明確にしたことで、取り組みに対しての担当としての責任感はそれぞれの職員が出来ていたのではないかと感じる。だが、担当外の事に関しては、人任せになっており自発的にアイデアや取り組みに対しての意見が少なく積極性やチームとして目標に向かう気持ちが欠けていたのではないかと思う。また自分の事で精一杯になり、新人職員や若手職員に対しての指導、育成が出来なかったり、指示された事だけで終わってしまう事が多かったのではないかと感じている。経験の浅い職員が増えており、ゲスト様に対しての対応にばらつきがある事から、今後、認知症専門棟として認知症ケアの理解と水分や座位排便の取組みに対しての必要性など、統一したケアに向けて再度伝えていき、27 年度の目標達成に向けて、チームワークを高め、全職員が助け合いの気持ちを持ってもらえる様にしていきたい。

②一般棟

フロアの課題から『年間褥瘡件数の 50%減少』を目標に、それぞれに特化した役割を持つ部門を 3 つに分け、ＰＤＣＡサイクルに基づいた、根底の課題にアプローチを働きかけた。決まった事が適正に評価され改善出来る事を目的に事業計画がスタート。その結果、数値目標値には到達した。ＮＰＵＡＰ分類ステージⅡ：突出部に表皮剥離形成件数、今年度実績 16 件（24 年度形成件数 45 件）となった。予防含む発赤の段階での情報共有や対応が迅速になったことで、ステージの進行及び医療的な処置の増加となるケースは激減した。だが、完治した部位の再発を繰り返すゲストが何人がいたことも事実である。

何かを目標に掲げ、直に改善されるが、今後に繋がらず、新たな問題が発生するという悪循環が見え隠れする中、感染症蔓延・特色作り・異動・退職によるノウハウの流出等、様々な課題が考えられる。そして改善に向け、個の力を結束し、チーム力を発揮する為のコミュニケーションや面談の必要性は最重要課題と認識。そのことから、次年度においてはケース検討会議を主におき、職員間での意識・情報の共有を行い、根幹にアプローチをかけた取り組みと、基礎作りを行うこととする。

③全体

今年度と昨年度を比較すると、まず改善された点として、充足率のアップと事故件数の減少が挙げられる。充足率に関しては、これまで月 1 回だった「入所検討委員会」を 2 回に増やし待機者動向を把握することに努めた事と、担当者がこれまで以上に連携を密にした結果と言える。しかし、1 月から感染症が蔓延し 98%に留まった感がある。

事故減少に関して、委員会が中心となって課題解決を検討してきた事が要因として挙げられ対策が現場で機能してきたと感じている。

また、今年度は『看取り勉強会』と称してご家族に対して、当園の『看取り』を知っていただく機会を設け、これまで意識のなかった方からも『よくわかった』との声をいただき理解度が進んだ。死生観の考え方は様々であるが、実践報告を通じて当園の『看取り介護』を伝える事ができたのはよかった。

全国的にも介護職員不足の中、当園においても介護職員の確保が難しく、新規事業立ち上げもあり、法人内の 3 施設合同で確保に取り組んだ。新卒者向けに、求人用パンフレットの作製、学校への営業回りや就活サイト、見学説明会の開催、西日本の福祉系大学への求人票郵送など様々な角度から検証し、実行していった。新規事業への介護職員確保はできたが、既存施設では苦戦を強いられている。より一層、独自色を出す取り組みを推進していきたいと考える。

今後も事業目標達成の為、職員同士の連携を深め、ゲストが安心して大慈園で生活できる様努めていきたい。又、設立 20 周年に向け、これまで経験してきたことを後世に残し、次へのステップにするべく、ゲスト情報の一元化を図り、より良い看取り介護につなげたい。